



《笑顔でチャレンジ!》

学校だより

上越市立下黒川小学校

第 13 号

令和2年1月8日発行 (回覧2月1日便)

<http://www.shimokuro.jorne.ed.jp/>



冬休みの前、日本愛子生牛(お願)い、書初めの練習を行いました。一月十日(金)校内書初めがあります。練習の成果を發揮し、一人一人の思いがもった素晴らしい作品が出来上がることを期待しています。

十四日(火)からの校内書初めの展覧展示も、ご来校ください。

あけましておめでとうございます。

今年もどうぞよろしくお願いたします。

校長 岩下 伸子



2020年(令和2年)が、スタートしました。

世界中が楽しみにしている東京オリンピック・パラリンピックの年、そして、学校においては変革の年、新学習指導要領全面実施の年です。

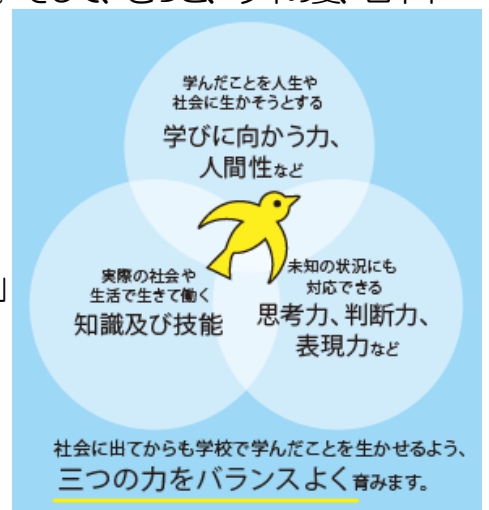
東京オリンピック・パラリンピックに向けて、既に着々と準備が進んでいます。4年に1度のスポーツの祭典、選手の皆さんは自分の目標に向けて着々と調整・精進していることでしょう。そして、きっと、今年の夏、日本中が感動の渦に包まれることでしょう。楽しみですね。

学校では、新学習指導要領の全面実施に向けて、準備を進めています。

未来を担う子どもたちが、社会に出てからも学校で学んだことを生かせるよう、3つの力をバランスよく育てていくことができるように工夫していきます。《人間性》《人間力》を育てていくことが重要となると考えます。

さて、今日から3学期が始まりました。3学期は51日間と短いですが、1月には「いきいき体操フェスティバル」「心技体抗大縄大会」「金管弓継式」「NRT学カテスト」があり、2月には「節分集会」「スキー教室」「新1年生のための移行学級」があり、3月には「委員会弓継」「6年生を送る会」「卒業式」があります。冬のスポーツを楽しみ、1年間の学習のまとめを行い、伝統の弓継ぎを行う《総まとめの学期》です。

子年は、子孫繁栄、生命の始まり、未来への可能性を秘めているともいわれているそうです。新年を迎え、新たな気持ちで登校してきた子どもたち。雪のない穏やかな正月を迎え、楽しい冬休みを過ごしてきた子どもたち。笑顔いっぱい・元気いっぱい登校してきた子どもたちが、健康で、充実した3学期を送ることができるよう、保護者の皆様、地域の皆様、どうぞ今年もよろしくご支援・ご協力をお願いいたします。





《みとめあう》かかわりを楽しむ子…児童・保護者・職員アンケートより

- ① 重点取組「進んであじまつをした」児童85%保護者80%以上
⇒ 児童94.7% (97.4%) 保護者79.2%、職員73.0%
- ② 重点取組「わくわく活動」を通じ、進んで人とかかわった」児童90%以上
⇒ 児童89.5% (94.7%) 保護者90.9%、職員92.0%
- ③ 評価項目「私活動の役に立っている」児童80%以上⇒ 児童82.9% (75.0%) 保護者88.3%、職員100%



★★

①について、94.7%の児童が肯定的評価でした。『あじまつ1,000人大運動』の期間中や運営委員会が『あじまつ運動』を実施している期間は、元気なあじまつの声が聞こえていました。しかし、期間終了すると意識が下がってしまうような気がします。あじまつが日常化するような手立てが必要なのでしょうか。保護者アンケート自由記述の中に、「当たり前のことか当たり前のできる子（勉強等も大事だが、あじまつや準備、気持ちの切り替え、ご飯をたくさん食べる、自分の気持ちや体調を相手に伝える等）に育てほしい」という記述がありました。あじまつができることや人とかかわることは、子どもたちがこれから生きていく上でとても大切なことであると考えます。

②「については、若干下かりました。しかし、動物飼育種水埋菜や米の栽培種、地域採食、地域を学ぶなどの活動は、自分一人ではやり遂げることができない、友達や地域の方との協力・協働なしではやり遂げることができない学習です。実際、子どもたちは協力しながら活動をしています。その自分のかんばりを、《ほほはかんばった！私かんばった！》と、自分で自分を褒めることができるようになることが大切だと考えています。そのことが③「私活動の役に立っている」に繋がり、自分から進んで声を掛ける①「進んであじまつをする」に繋がっていくと考えます。全校児童77名、一人一人が自分に自信をもち、それぞれの良さを十分発揮し、活躍してほしいと思っています。学校では、かんばっていることを可視化したり、メッセージとして届けたいと思います。ご家庭でも是非、子どもたちとあじまつを交わし、かんばりを褒めてあげてください。

③について、目標をクリアすることができました。当校の子どもたちの全てが、友達や周りの人のために役立とうとがんばっています。職員の評価は100%です。まだまだ上がっていくと考えます。

今年度のアルミ缶活動・福祉活動のまとめとして、2月19日（水）に「第2回福祉の集い」を行います。よねやまの里の皆様にも2台の車椅子を寄贈できる予定です。これも誰かの役に立ちたいという子どもたちの思いのあらわれだと考えます。地域の皆様・保護者の皆様の支えがあってこそこの活動だと感謝しております。



《きたえあう》運動を楽しむ子…児童・保護者・職員アンケートより

- ① 重点取組「めあてに向かって進んで運動に取り組んだ」児童90%以上
⇒ 児童90.8% (92.1%) 保護者74.1%、職員100%
- ② 重点取組「安全や健康に気を付けて生活した」児童85%以上
⇒ 児童93.4% (88.1%) 保護者90.9%、職員83%
- ③ 評価項目「家庭で決めたアウトメディアのルールを守った」児童80%以上
⇒ 児童86.8% (84.2%) 保護者71.5%、職員92%
- ④ 評価項目「ランチルーム給食で楽しく残さず食べた」児童80%以上
⇒ 児童81.3% (81.6%) 保護者59.2%、職員100%



★★

①について、子どもたちは「マラソン・駅伝大会」や「ダンスフェスティバル」に向けてめあてをもって取り組みました。2学期後半からは「イキイキ木塚フェスティバル」に向けて、縄跳びや器械運動にも積極的に取り組みました。体育授業と合わせ、体育的な学校行事を大切に、学年やクラスごとに取り組むことによって、子どもたちは苦手なことにもいろいろ挑戦し、自信をもつようです。3学期「イキイキ木塚フェスティバル」と3年生以上のスキー教室を実施します。楽しみです。

②について、児童の肯定的評価は5ポイントほど上がりました。一人一人の子どもたちが意識をしているということです。廊下を走る子ども減ってきたようですが、まだまだ多いです。

③について、1学期同様約8割の子どもたちが肯定的評価をしています。当校の子どもたちは他校に比べ、野菜や魚などもよく食べる方だと思います。おやわりをする子どもたちも多いです。祖父母との同居家庭が多かったり、各家庭でいろいろ工夫して調理してくださったりしているからだと思います。「家では食べないのに、学校では食べているようで感謝しています」という保護者の方もいらっしゃいます。しかし「食べたことがないから嫌い」という子も多いです。学校では無理矢理食べさせるのではなく、「少し食べてみよう」と声掛けをします。「食べてみたら美味しかった」「食べてみたら食べられた」という子もいます。毎週火曜日に藤井栄養士が来校し、子どもたちに食育指導をしてくださいます。《健康的な体は健康的な食事から》と言われるます。

④について、児童の肯定的評価は同程度でした。「アウトメディアのルールを守る」については、引き続き、ご家庭でお子さんと話し合っていたらとありがたいです。

